

亀井節夫著"日本にも象がいたころ"

雑誌名	静岡地学
巻	10
ページ	21-22
発行年	1967-10-26
出版者	静岡県地学会
URL	http://doi.org/10.14945/00026069

のころは映画やテレビ・少年雑誌にいろいろ面白い怪獣が登場してくる。子供達と一緒にこれらの怪獣のモデルとなった太古の動物を探しあててみるのにも、この本は役立つかもしれない。

この本は3部からなり、第1部では新生代に栄えた哺乳類や鳥類が描かれており、マンモスのほか、カバ、サイ、ダチョウに似た動物や、キツネ大の馬の先祖などが登場する。第2部では中生代に現われた陸棲・水棲・肉食・草食など、さまざまな恐竜や、空とぶ翼竜、海をもぐる海竜、鳥類の祖先が描かれている。体重78トンの驚異的巨体を誇るブラキオサウルスから、恐竜・翼竜・ワニ・鳥の祖先といわれている体長1m余の小じんまりしたテコドントに至るまで、その顔ぶれは多士済々。第3部は古生代にさかのぼる。両生類・魚類・爬虫類や無脊椎動物（ゴキブリ・トンボ・サソリ）などの先祖が描かれている。

太古の動物などがどのように環境に順応して自らの体形をかえ、進化していったかを調べたい読者には、この本に掲げられている多くの図表がお手伝いをしてくれる。進化の問題に余り興味のない読者は、犯人を探し求めるシャーロックホームズよろしく、太古の動物の骨格や諸器管の特徴やミイラや氷づけになった生体などを手がかりに、動物たちがどのような習性を持ち、どのようにして外敵とたたかい、どのようなものを食べて子孫を残し、どのような環境のもとで生活していたかを探究し、想像されることをおすすめする。この本は動物たちが生きていた時代の光影を頭に描くのに手助けをしてくれ、読者を自由な幻想の世界へみちびいてくれるであろう。（四六版 210頁、380円、42年9月、徳間書店）

< 新刊紹介 >

亀井節夫・著

“日本にも象がいたころ”

（岩波新書 645）

今日の日本には象は住みついていない。しかしながら日本の国土からは実にさまざまな象の化石が発見されている。このことから日本にもかつては象の繁栄した時代があったことが推測される。

本書はわが国における哺乳動物化石に関する権威者として、また野尻湖底の発掘調査の推進者として知られる著者によってまとめられたもので、全5章で構成されている。第1章“日本にも象がいた”では竜骨が象の化石であることが明らかにされた経緯、日本における化石象の研究とそれにまつわるいくつかの謎について述べられている。特に野尻湖底の発掘を通して、南方系のナウマン象が最終氷期の極相（約20000年前）の寒冷気候の中で、生き延びていたことが明らかにされたことが注目される。

第2章“象の生活はどのようなものか”では象の鼻、象の体、象の歯、象の生活など、象に関する興味ある話題が取上げられている。現在の象の歯は水平交換であるが、古い型の化石象では乳歯・永久歯の区別があり、垂直交換をしていたこと、死期を察した象の集まるという「象の墓場」はないらしいなど、興味深く書き進められている。

第3章では“象はどのように進化して来たか”が取上げられ、象の進化は体の大型化、脚の骨の長大化、指骨の巾の増大と長さの短縮、頭蓋の大化とそれに伴う頭部の短縮、下顎の伸長、鼻の伸長、

第2切歯の犬歯化→牙の発達、臼歯の大型化などが、互に関連し合いながら、段階的・飛躍的にこなわれたと述べている。

第IV章“象の化石をさぐる”では化石の発見から、その発掘、復元にいたる過程について述べられ、化石像の復元とは形についてのマクロの世界から、そこに残された組織や細胞、さらに分子・原子というミクロの世界に生命の働きのあとを求め、それらを一個体の生物体に復元することだと述べている。

第V章“象の来た道”では日本に住みついたもっとも古い陸生の哺乳類から現代型の象（エレファス）にいたる各種の象が、移り変わる日本の自然の中でどのように適応し、またどのように生活の場を移し、あるいは滅んでいったかを描いている。日本におけるナウマン象の化石の分布を見ると、ウルム氷期以前には瀬戸内海周辺、東京地方、東京湾周辺など海岸地域におもに住んでいたが、ウルム氷期には中部日本の標高700mもの高原地帯や東北日本内陸部と裏日本、さらに北海道に住むようにさえなった。これについて著者は寒冷な気候のもとでの人類の生活の場が温暖で獲物の多い太平洋沿岸域に集中したために、ナウマン象の生活の場が高原地帯や内陸の湖沼地帯へ移動したのではないかと推定している。（新書版197ページ、150円、42年5月、岩波書店）

静岡・清水地域の地質・地盤図の発刊！

（縮尺 25,000分の1）

このたび、静岡商工会議所・静岡大学地学教室および関係諸官庁・諸団体の協力により、静岡地域の詳細な地質図・地盤図ならびにその説明書が完成発刊されました。東名高速道路や東海道新幹線の路線地盤調査の際のものを含め、880本におよぶ多くの試錐の資料にもとづいて、沖積平野の地質が区分されています。これはわが国でも稀な異彩を放つ企画で、本刊行物の特徴の1つとなっています。また、説明書には540本の試錐による地質柱状図が収録されていますので、地盤図と併せて、産業開発・都市建設などにともなう地盤調査や地下水調査に直ちに役立つものと信じています。説明書には静岡地域の地形発達史、構造発達史、産出岩石、化石など、地学教材や研究資料として豊富な内容が含まれています。関係会社・事業所ばかりでなく、小学校から大学に至るまでの教育機関・研究室などにぜひ備えて活用されるようおすすめします。

内 容

- 1 25,000分の1 静岡清水地域地質図・地質断面図（多色刷、横104cm、縦74.5cm）
- 2 25,000分の1 静岡清水地域地盤図（多色刷、104×74.5cm、沖積層断面図、等N値線）
- 3 25,000分の1 静岡清水地域ボーリング地点図（104×74.5cm、沖積地に1m毎の等高線）
- 4 静岡・清水地域の地質 —地質図説明書—（A5判、232頁、地形・地質、地盤、地下資源；地下水・河川礫・石材・天然ガス・温泉・鉱泉）

申 込 先 : 静岡市呉服町2丁目5の14 静岡商工会議所

頒 布 価 格 : 1組 1,500円（送料頒布元負担）

代金を添えて直接上記の所にお申込み下さい。